

# 『男女共同参画社会』って…なに？

## 女が威張る社会？ 外で働く女性だけがもてはやされる社会？

# 響かせよう、人類

幼稚園でも学校でも家庭でも、気が付いたところ、やっつけていけばいい。(樋口)



樋口 殺し文句って言われてもねえ。一人ひとり刷り込まれているものに、共通性と個別性がありますから、効く人と効かない人がありますよ。ざっとした感想だけ申し上げますと、育ジイは結構なことだと思っております。ただ、本物の育児の段階から始めてほしい、年をとってから変えるよりずっと本物に育ちます。

でも今は過渡期だから、幼稚園でも学校でも家庭でも、気が付いたところ、やっつけていけばいい。

山口 協力が下手な男性、もしくは協力の方法が分らない男性を、「やっつけてやろうかなあ」という気にさせる殺し文句がありましたら、ぜひお聞かせください。

先がないのだ、ということを知っている人は、地域性や世代性もあるかもしれないけれど意外に多くいますよ。

「女性は、結婚しても対等に家庭の責任を担い合い、社会でも活躍して幸せになる」というメッセージを、親として贈りたい。(森)



森 私は昨年の統一地方選で、横越町で初めての女性議員になりました。

私の娘たちが将来、素敵なパートナーを見つけて結婚して、充実した生活を送れるようにするために、子どもたちにもいかに私、ぞうきんになってほしいわ、って思える人がまだ見つからないんだよ」という話でした。

昔でしたら過期を過ぎたといわれたような年代の、まだ結婚していない女性たちもいろいろお話ししました。「どうして結婚しないんですか」と聞いて「結婚したくないわけじゃない、子ども産みたいと思ってる。でも、親の世代を見ていると、女性って結婚したら何かほろぞうきんのようにになるんだよね。先に結婚した友達を

# — 誤解していませんか？

# の声を!



▲12月12日のトーク＆トークの様子

市では市制施行50周年を記念して昨年、身近な生活や人権をテーマにさまざまな講演会やワークショップを開催してきました。今回はその中から、12月12日に男女共同参画社会をテーマに新潟テルサで行われた「女と男」ふれ愛フェスタ2000新潟地域フォーラムから、講師の樋口恵子さんと新潟市長、実行委員会のメンバーで行われた「トーク＆トーク」を、会場に来られなかった皆さんにご紹介します。

男女共同参画社会がよく分からない人も、あまり良い印象を持っていない人も、これからの日本の社会のために、まず家庭という小さな社会にもあるジェンダー（社会的につくられた性別による役割分担）に目を向けてみませんか？ ※「トーク＆トーク」に先だって行われた樋口恵子さんの講演の内容は、3月中旬に、ラジオチャット（エフエム新潟 FM76.1MHz）で放送します。



男女共同参画社会～？  
「女と男」ふれ愛フェスタ2000新潟地域フォーラムから、講師の樋口恵子さんと新潟市長、実行委員会のメンバーで行われた「トーク＆トーク」を、会場に来られなかった皆さんにご紹介します。

- \*パネリスト
- 樋口恵子さん（講師）
- 湯田幸永市長
- 真野とみさん（女と男）ふれ愛フェスタ実行委員長
- 森裕子さん（横越町町議会議員、同実行委員会副会長）
- \*コーディネーター
- 山口律子さん

最初は育児。次は育児、そして育ジイ（爺）？

山口 それではまず、実行委員として携わってきた感想、そしてすでに行われましたワークショップの報告、新潟の現状などをお聞かせください。

真野 実行委員会会長という物々しい肩書きをいただきましたが、実のところ、最初は内容というのはいくぶん分かりませんでした。「ちょっと来てちょうだい」と言われたので、ノコノコと行きましたら、新潟市・亀田町・横越町・小須戸町から集まった十二名と新潟市の行政で組織する実行委員会の会長を引き受けることになってしまいました。

とりあえずは、まず女性が担っている家事・育児・介護そして仕事、この四つのワークショップ



新津のお母さんたちは、すごく元気。でも、男性の自立がまだついてきていないと感じます。(真野)

ツブを聞くことになりました。私の担当した、家事についてのワークショップでは、食事をしながらジェンダー（社会的につくられた性別による役割分担）チェックをやって、それを基にして話し合いを進めました。その中の六十代の男性は、夫婦共働まで、同じ時間に出かけて、疲れて帰ってくるのも同じ。それで、その男性はカミさんややっばり疲れているだろうから掃除くらいはやってやろうと、トイレ掃除や洗濯もなさったそうなんです。

これは多分、奥さんに対する思いやりから本心に自然な気持ちでできているんです。ところが、ジェンダーチェックをやると、「女性は女性らしく」とか、「介護はやっばり女性にしてもらいたい」とか、「料理は

女性に作ってもらいたい」なんていうようなところは、みんなOでマイナス点が多くなってしまっている。次に新潟の現状ということで、新潟に限らず日本全国のお母さんたちですごく元気がいいと思います。新潟のお母さん方も本当に元気がよくて、ボランティアとか、趣味のサークルとか、どんどん出ていらつしゃいます。家を一歩出て活動しているという点ではとてもいいと思います。でも話を聞くと、家を出る時に必ずお昼とか夕飯とかは作って出てこられる。これに対しては、まだまだ男性に自立してもらっているというところまではいかなないんだなあと感じました。ある人から、女性は最初に育児をする、次に自分を育てる「育自」をする、次に「育ジイ（爺）」をするという話を聞いて、「あ、今、まさに日本の女性は「これなんだな」という風に感じたことがあります。